

令和5年度第1回さいたま市青少年宇宙科学館運営委員会 議事録

1 開催日時

令和5年8月29日（火） 15時00分から16時30分

2 開催場所

青少年宇宙科学館 2階 団体抛室

3 出席者

【委員：8名】

- ① 大向 隆三委員長
- ② 鶴ヶ谷 柊子委員
- ③ 菅野 千香子委員
- ④ 佐久間 由記委員
- ⑤ 鈴木 伸嘉委員
- ⑥ 木村 良治委員
- ⑦ 引間 陽子委員
- ⑧ 野平 尚彦委員

【事務局：3名】

- ① 辻 美由紀（教育委員会生涯学習部長）
- ② 安藤 紘子（青少年宇宙科学館主任指導主事兼事業係長）
- ③ 森田 貴次（青少年宇宙科学館館長補佐兼管理係長）

4 欠席者

- ① 饗庭 加和委員
- ② 田邊 広昭委員

5 議題

- (1) 令和5年度 事業の計画について
- (2) 令和5年度 事業の進捗状況について
- (3) その他

・議事（１）令和５年度事業の計画について

鈴木委員：キッズ図書コーナーの本の購入は館の予算で購入しているのか。若しくは市内の図書館から譲ってもらっている型になっているのか。

事務局：本は館の予算で購入しています。

鈴木委員：管理が大変だが、市内には１８以上の図書館があり、毎年廃棄している書籍がある。宇宙科学という分野で書籍を増書していくことを検討してもらいたい。「蔵書が１万冊ある宇宙科学館」といった目玉になり得る。

事務局：前向きに検討させていただきます。

引間委員：「さいたま市から「体験の風をおこそう」運動」について、新規事業とあるが概要は。

事務局：１１月に開催される生涯学習フェスティバルにおいて、宇宙に関するブースを出展し、パネルで若田宇宙飛行士の功績を称えたり、これからの宇宙開発について市民の方々に学んで楽しむパネル展示の準備を進めております。

大向委員長：「事業計画」について、「完全に新しい取り組み」としては「「体験の風をおこそう」運動」への参加になるのか。

事務局：そのとおりでございます。

・議事（２）令和５年度事業の進捗状況について

木村委員：「統計」について、人数が５月位から増えているが、コロナ前に比べたら増えているのか。

事務局：コロナ前に比べても実は増えております。

木村委員：人数制限などのコロナ対策は既に実施していないのか。

事務局：コロナ対策は実施しておりません。ゴールデンウィーク明けからは1階のふれあい広場の席数を2倍に増やし、飲食ができることにした結果、利用者がかなり増えたと考えております。

鶴ヶ谷委員：「プラネタリウム利用者数」について、この人数はチケットを買った人数でしょうか。

事務局：チケットを買った人数と、学習利用で利用した児童・生徒の人数や、引率した教員の人数も含まれております。

鶴ヶ谷委員：施設利用者数と入館者数との関連はどうなっているのか。

事務局：施設利用者数は青少年ホールや視聴覚ホール等の貸部屋を利用した人数であり、入館者数は館に入館した延べ人数になります。

菅野委員：「中高生等によるボランティア」について、募集はどのように行っているのか。

事務局：募集は広く行っています。市立の学校にはメールで案内しています。さいたま市以外の方も対象にしておりますので、ホームページ上で募集をかけております。希望者から連絡が入れば、早い者順に受け付けております。

大向委員長：早い者順ということは、定員が決まっているのか。

事務局：そのとおりでございます。

大向委員長：中学生や高校生には良い機会になると思うから、夏休みだけではなく、1年間を通して機会を与えられないか。

事務局：生涯学習部で実施している「「自分発見！」チャレンジUpさいたま」の専用手帳に、「ボランティア活動の記録」という欄があります。この手帳を活用していただければ、当館ではいつでも受け入れる体制を整えています。

大向委員長：「働く体験」として良い機会になるので、大勢の方が来てくれれば良いですね。

鈴木委員：動画コンテストについて、優勝した動画をプラネタリウムの投影事業の一環で投影することが可能か。

事務局：パソコンから投影することは可能であります。

鈴木委員：プラネタリウム本編の前に投影されることを知れば、動画を作成する側からしたら、作り甲斐があると思われる。また今年国際芸術祭に参加されるとのことですが、例えばアニメや動画で短編で作成されたものを募集し、1年間かけて優勝者を決定し、当館のキャラクターを決めていくことも良いかなと。発表する機会を欲しい人が多いし、市長や館長の表彰状といった名誉を求める人もいます。

事務局：動画コンテストの「サイエンス・ウィンターフェスティバル」では、公式YouTubeチャンネルを持っていて、昨年度は優勝者の動画をYouTubeに流させていただきましたが、プラネタリウムでの投影は今年度検討させていただきます。

木村委員：「展示事業」について、来館者数に差が出ているが、原因を追究したことはあるか。

事務局：来館者が低い令和4年10月は、例年実施している企画展を実施せず、さいたま市が実施した科学振興展覧会のために、本来企画展を実施するスペースに子供たちの作品を展示していました。展示されている子どもご家族が足を運ばれていました。また「創意工夫展」は令和4年10月や11月に行いました。企画展を実施しなかったためと思われますが、今年度はこの時期に企画展を予定しております。

野平委員：「夏休みこども科学館まつり」について、夏休みが終わっていない8月13日になぜ終わっているのか。

事務局：博物館実習生や中高生科学館ボランティアの運用に伴う調整上、8月13日にしております。

野平委員：博物館実習生は何名でしたか。

事務局：30名でございます。

野平委員：「若田宇宙飛行士アカデミースペースコースアドバンス」について、参加する子供たちは、かなり宇宙に興味を持った子供たちなのか。

事務局：はい。宇宙に大変興味や関心を持っている子どもたちであり、このような場では光ります。昨年度の発表の場では大変光っていて、ICTを使って発表するグループもいました。

大向委員長：関連しますが、メンバーが固まる傾向はありますか。

事務局：グループを作ると、同じような感覚を持った子どもたちも、リーダ資質の子どもや、研究資質の子ども、プレゼン資質の子どもなど、自然に役割が決まっていきます。

野平委員：展示事業「むしむしわーど」について、標本に使う防虫剤に入替は大丈夫か。

事務局：さいたま市が取り組んでいる「未来くるワーク」の中学生達が、冬場に全部入れ替えています。

・議事（3）その他

事務局：特にございませぬ。